

オーディオ実験室収載

モーツアルト盤を聴く(120)(HP 収載) —最新アナログシステムでの試聴(120)—

1. 始めに

前報(119)に引き続き、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を最新アナログシステムで試聴していきます。

2. モーツアルトのアナログ盤の試聴方法

モーツアルトのアナログ盤の由来およびアナログシステムの状況は前報(1)のとおりです。今回は、LINN LP-12 を使用します。

試聴システムは仮想アースに加えて、スピーカーアキュライザーSPA-7 が加わっています。さらにスピーカーアキュライザーの接続をバナナプラグに置き換え、電解コンデンサーを追加し、電磁波吸収テープ NRF-005T をバナナプラグに巻いています。音源は、新たに入手したモーツアルトのアナログ盤を使用していきますが、今回はオペラの曲です。

ORFEO S 055 832 K

モーツアルト **ZAIDE**

Leopold Harger 指揮 Mozarteum Orchesta Salzbur4g

3. モーツアルトのアナログ盤の試聴結果

ORFEO 盤ということで、TELDEC、正相、第4時定数 High で聴いていきます。もともと未完成の曲で後世において書き足して形をととのえたと言われています。LPの2枚組でのかなり長い曲です。

前報(119)と同じレーベル、同じ指揮とオーケストラですので、音質や演奏は前報(119)とよく似ています。

ストーリーはよく分かりませんが、要所に語りが入り、それに合わせてアリアやレシタティーブがあります、アリアも語りも、定位がしっかり聞き取れ、間接音も含めたステージ感がリアルです。

ソプラノからバスまでの声の質感も十分で、バックのアンサンブルは爽やかでクリアな音質で歌唱を支えています。

4. まとめ

ターンテーブルアキュライザー、ダンパーフレイク、Crystal E、スピーカーアキュライザーなどの総合的な効果により、歌唱の質感や定位など、オペラの収録の上記の

盤の特徴がよく把握できます。

以上/